

電子版センターだより

Gunma Prefectural Education Center
群馬県総合教育センター - No.29 -



令和3年11月30日(火)配信

<掲載内容>

	頁
1 教育研修員研修の紹介	1
2 ぐんま教育フェスタ・オンライン開催の案内	3
3 カリキュラムセンターの紹介	4
4 特別支援教育における ICT の活用	5
5 幼児期の教育コラム	6
6 教育相談技術認定について	7
7 当センターへ来所される方へ	8

編集後記



教育研修員研修の紹介

教育研修員研修は、教育の今日的課題の解決や実践的指導力の向上を目指した研修を通して、教員の資質向上を図るとともに、本県幼児、児童生徒の学力向上と健全育成に資することを目的として、一年間、研修を行います。

長期研修員

長期研修では、国の動向や県教育委員会の指導方針を踏まえ、教育課題の解決に向けた研究及び研修を行っています。本県の教育課題を踏まえた研修を通して、実践的な指導力や助言力を高めるとともに、研究協力校や地域の中核として指導的な役割を担うことのできる人材を育成しています。

今年度は20名（小学校10名、中学校6名、高等学校3名、特別支援学校1名）が、各教科、道徳、特別支援教育、ICT活用教育、多文化共生教育、高校教育の改善について研究を進めています。

【研修員のコメント】



特別支援教育において、知的障害のある生徒の生活単元学習の授業づくりについて研究を進めています。キャリア教育の視点を取り入れ、一人一人の実態に応じた授業づくりを通して、生徒が自分のよさに気付くことを目指しています。先生方の授業づくりの視点が明確になり、生徒が授業の中で主体的に活動し、将来につながる力を積み上げていくことができるように頑張ります。

県立渋川特別支援学校 田中 宏美



ICT活用教育について、4人の研修員でチームを作り、研究を進めています。1人1台端末が学校現場に導入され、どのように活用すればよいのか多くの学校が試行錯誤している状況です。毎週火曜日と木曜日にZoomを使った「ICT活用教育オンライン窓口」を開設し、現場の先生方の困りごとを受け付け、解決するための資料を作成して提供しています。先生方のお役に立てるように頑張ります。

みどり市立笠懸小学校 大澤 宏美



多文化共生教育を研究領域とし、外国人児童生徒等への日本語教育についてチームで研究をしています。本年度作成している、外国人児童生徒等への学習支援ガイドブック「ぐんまのかけはし」では、初期指導を終えた児童生徒を対象に教科横断的な視点を取り入れた日本語中期プログラム、また、GIGAスクール推進に伴い、外国人児童生徒への支援にもICTを活用していくアイデアを盛り込んでいます。外国人児童生徒の指導で悩んでいる先生方のお役に立てるように頑張ります。

玉村町立南中学校 西口 仁

長期社会体験研修員

長期社会体験研修では、一年間、県内の企業において業務に取り組み、各企業の組織運営や人材育成などについて研修を行っています。また、キャリア教育を推進するための授業や校内研修を、研究協力校において実践しました。今年度は4名（小学校1名、高等学校3名）が各企業で研修しています。

【研修員のコメント】



群馬ヤクルト販売株式会社にて、県内各地の自販機への納品作業やプロジェクトに参加し、会社と社員の絆を強化する取組などを行いました。社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の必要性を体感しました。学校での学習が、社会で役立つことを理解できるようヤクルトの仕事を紹介し、授業実践を行いました。

高崎市立滝川小学校 白尾 亮一郎



株式会社クライムにて、システムエンジニア（SE）として、営業・顧客とのヒアリング・画面設計などシステム開発の工程に携わっています。研究協力校では、教室と企業をオンラインで繋ぐことで、社会人の生の声を生徒たちに届け、働くことの意義を考えさせ、進路選択へのステップを踏んでいく「キャリアプランニング能力」の向上を目標に授業を実践しました。

県立高崎商業高等学校 木暮 臣祥

特別研修員

特別研修では、年間25日の研修日が設定され、講話、講義・演習、班別協議等に取り組み、研究協力校での授業実践等を通して、指導方法や評価方法の改善に資する研究及び研修を行っています。今年度はコロナ禍のため、オンラインでの模擬授業などの工夫をしながら研修を進めてきました。10月から11月にかけて37名（小学校10名、中学校16名、中等教育学校1名、高等学校8名、特別支援学校2名）が教職員の教科等の指導力向上に寄与すべく、実践授業を公開しました。



【研修員のコメント】

- ・ 講義・演習などを通して、指導法についての情報を得ることができ、実践に生かしています。
- ・ 模擬授業を通して、授業改善のアドバイスを頂き授業のスキルアップにつながっています。
- ・ 学んだことを所属校の先生と共有することで、学校職員全体の資質向上に役立っています。

教育研修員の過去の報告書はこちら [【https://center.gsn.ed.jp/kensyuin】](https://center.gsn.ed.jp/kensyuin)

ぐんま教育フェスタ・オンライン開催の案内

「ぐんま教育フェスタ」は、教育の質の向上につながる講演・研究成果の発表・表彰等を通して、次代を担う子供たちの確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成に必要な最新の情報を発信し、群馬県の教育の在り方について考える催しです。

新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインで開催します。内容は以下の二本柱で行うこととなりました。

1. 「ぐんま教育フェスタ」オンライン・ライブ配信

(1) 開催日時：令和4年2月5日（土）13:00～16:00

(2) 内 容：以下の表のとおり

内容	時間
1. オープニング	13:00～13:15
2. ぐんま教育賞受賞者の表彰	13:15～13:45
3. 先進プログラミング教育実践モデル校の実践発表 吉岡町立明治小学校 吉岡町立駒寄小学校 昭和村立大河原小学校 千代田町立東小学校	13:45～14:30
4. 特別講演 演題：「始動人」が育つ・学校と社会の役割 講師： 福田 尚久 氏  1962年群馬県生まれ。県立前橋高校を卒業後、東京大学に通いながら1985年前橋で起業。1986年東京大学文学部卒業、1992年米国ダートマス大学経営大学院（MBA）修了。1993年、アップルコンピュータ（現Apple）入社。アップル米国本社副社長などを経て、2002年日本通信株式会社入社。MVNOの事業推進、規制緩和に取り組み、2015年6月代表取締役社長に就任（現職）。2021年4月より公立大学法人前橋工科大学の理事長（現職）。前橋市スーパーシティ構想のアーキテクトの一人。	14:30～16:00

(3) 視聴方法：事前申込みが必要になります

総合教育センターWebページの「ぐんま教育フェスタ」バナー（12月中旬に掲載予定）から、ID、パスワードを入力の上、Google フォームにてお申し込みください。後日、視聴用URLを申込時に登録されたメール宛てにお知らせします。

2. 長期研修員、長期社会体験研修員及び特別研修員の成果発表

(1) 開催日時：令和4年2月5日（土）～2月13日（日）

(2) 内 容：動画配信（長期研修員及び長期社会体験研修員）
：紙面発表（長期研修員、長期社会体験研修員及び特別研修員）

(3) 視聴方法：総合教育センターWebページにリンクを掲載

事前申込みは必要ありません

カリキュラムセンターの紹介

当センター2階にあるカリキュラムセンターでは、特色ある教育活動の実現や授業の改善・充実などに役立つ教育資料・図書等を収集し、閲覧・貸出を行っています。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止として、「利用ガイド」を作成しました。御協力の程、よろしくお願いいたします。



開館時間

火曜～金曜 9:00～17:00 (13:15～14:15までは昼休み)

新着図書・ビデオ・DVDの紹介

最新の図書を64冊配架しました。

今後も3ヶ月に1回程度、図書のリクエストも含めて、新着図書として配架していきます。

新着図書の一覧【 <https://center.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/5754> 】

また、令和3年度の新着のビデオ・DVDも配架しました。



題名	利用対象
「むしむし村の仲間たち」みんないいことあるんだよ	小学校低学年
「君が笑っていた」ソーシャルディスタンスの罨	中学校

特集

教育相談の本の紹介と魅力をボードにまとめて掲示しました。



・研究員の先生が実際に本を読んでお勧めしたい人や、注目してほしいところをまとめました。



新学習指導要領に対応した令和4年度からの使用教科書を配架しました。



・高等学校の来年度から使用する教科書を配架しました。普通教科から専門教科までそろえました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための「利用ガイド」(一部抜粋)



利用者の安全確保のために

- ・マスクを着用、手洗い・手指消毒・うがいの励行
- ・定期的(開室前、午前、午後、閉室後)に利用した場所の消毒や換気



利用時のお願い

- ・入口: アルコール消毒液で手指の消毒、利用者シートの記入
- ・滞在時間: 短めに(概ね1時間以内)



資料の閲覧・貸出

- ・書架等で閲覧(ブラウジング利用を含む)した資料: 直接書架に戻さず、返却台へ
- ・新聞の閲覧: 当面の間中止

カリキュラムセンター利用ガイド...<https://center.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/3694>



特別支援教育における ICT の活用

群馬県では、「ICTの活用における教育イノベーション」を推進しています。特別支援教育においても、ICTを活用した教育活動の充実が求められています。

【令和3年度特別支援教育充実研修講座より抜粋】

「特別支援教育における ICT 機器を活用した授業づくり」

講師 帝京大学教育学部初等教育学科 教授 金森 克浩 先生

※ 以下については、上記研修講座における金森先生の資料より引用しています。

ICT活用のポイント

ICT活用の4観点9項目

観点	A コミュニケーション支援		B 活動支援			C 学習支援			D 実態把握支援
項目	A1 意思伝達支援	A2 遠隔コミュニケーション支援	B1 情報入手支援	B2 機器操作支援	B3 時間支援	C1 教科学習支援	C2 認知発達支援	C3 社会生活支援	D1 実態把握支援
事例	iPadの文字入力機能を使った実践	テレビ会議システムを利用する取組	教科書を読む際に、読み上げ音声で内容を理解	iPadで写真を撮る	授業の流れを理解する	iPadとアプリを利用した漢字学習支援	iPadなどを使いながら個々の学習課題を支援した事例	自分の姿を振り返るモニタリング事例	子供の意思表出を記録して観察

特別支援教育の視点に ICT を取り入れて

- ① 社会参加と自立
→ より「主体的」に
- ② コミュニケーション支援
→ より「対話的」に
- ③ 学びの楽しさを知ること
→ より「深い学び」に

ICT 活用における好事例とは？ 逆の事例は？

- 障害や学習の困難を補うための支援として使われているか？
→ 障害による困難さが配慮されていない。
- 学習内容の理解を促進するための支援として使われているか？
→ ただ単に便利そうだから使っている。
- ICT 機器の特長が生かされているか？
→ 別のもので代替できるのに無理に使っている。

ICTの活用例

劇の台詞は誰が言っているの？



黒子（教師）の代わりにICTでできないかな？
→ 子供がICT機器を操作して、主体的に参加

授業で活用するときには…

- ① バックアップを用意する
 - ・代替手段を用意しておく
 - ・必ず予備実験をする
- ② 仲間をつくる
 - ・学校の中、インターネット、研究会
- ③ うまくいかないうことを楽しむ
 - ・「難しいからやらない」と考えるか、「新しいことを学べるので楽しい」と考えるか
- ④ 参考図書を活用する
- ⑤ Web を活用する



「遊び」 - 「遊ぶ」をめぐる教師の視点と“構え”

みなさんは、子供の「遊び」をどのように捉えていますか。仲間と一緒に笑顔で活動していることを、「遊び」をしていると捉えますか。この「遊びをしている」と「遊ぶ」に違いはあるのでしょうか。本稿は、子供の育ちを支える教師の指導の在り方について、「遊び」 - 「遊ぶ」をめぐる教師の視点と“構え”という視座から考えていきたいと思えます。

「遊び」については、ヨハン・ホイジンガの「ホモ・ルーデンス」やロジェ・カイヨワの「遊びと人間」をはじめ、様々な考察が行われてきました。私が本稿で取り上げるのは、杉原隆の論考です。杉原は「生涯スポーツの心理学」（2011）にて、内発的に動機づけられた活動こそが「遊び」であるとし、「遊び」を連続体として捉えることを提言しています。人間は、一つの動機だけで活動することは少ないと考えられますので、遊びを内発的動機かそうでないか（外発的動機）という二分法で捉えることは困難であるわけです。そこで、内発的動機づけを「遊び要素」、外発的動機づけを「非遊び要素」と考え、内発的動機づけが強いほど遊び的な活動であり、逆に外発的動機づけが強くなるほど遊びではなくなるとしたのです。例えば、友達と一緒にやりたい（親和動機）、先生に褒められたい（承認動機）、その活動の面白さに惹かれている（内発的動機）などのように同時に複数の動機をもっている場合、友達と一緒にやりたいとか先生に褒められたいとの思いが強い場合は非遊び要素が高く、その活動の魅力や面白さに惹き付けられている場合は遊び要素が高いということになります。このように、同じ活動をしていても、遊びとしての活動という場合もあれば、まったく遊びとは言えない活動もあることになるわけです。このような「遊び」の捉えを見ていくと、私たち教師は前述の意味での「遊び」の発生を支え、時間的・空間的・人的な保障をしていくことがその役割と考えられます。

しかし、子供と共に過ごす中で意識を向ける必要があるのは、むしろ「遊ぶ」ではないのかという考えにも至るのです。「遊ぶ」という行為の中で子供は何を経験し、何が育ちつつあるのかを読み取って、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きつつ、子供理解に基づく一人一人の発達の課題に子供自身が向かっていく（乗り越えていく）状況をつくるのが、本質的な教育の意味（教師の役割）と考えるのです。この教育実践には、幼児期の教育に携わる教師（保育者）の高度なファシリテーションスキルが有効に働いていると考えられます。ファシリテーションスキルには、基本的な四つのスキル「場をデザインするスキル」「対人関係のスキル」「構造化のスキル」「合意形成のスキル」があるとされます。「場をデザインするスキル」は、「環境の構成」という考え方、特に「状況づくり」が深く関係しています。「対人関係のスキル」は、安心感や信頼関係、そして「構造化のスキル」「合意形成のスキル」は子供と一緒に悩むという姿勢、すなわち子供の主体性や思考を促す“構え”に深く関係しています。

このような教師の視点と“構え”は、今日的な教育課題である「STEAM教育」や「非認知能力（社会情動的スキル）の育成」等を乗り越えるヒントにもなり得ると考えられます。幼児教育施設に所属の皆様は、「〇〇遊び」という“かたち”ではなく、「遊ぶ」という行為に内在する教育的価値に一層深く意識を向けてみてはいかがでしょうか。小・中・高・特別支援学校に所属の皆様は、幼児期の教育の理解を進めてみてはいかがでしょうか。

（幼児教育センター 指導主事 中村 崇）

お問い合わせ先：群馬県総合教育センター 幼児教育センター TEL：0270-26-9203（直通）

幼児教育センターWeb ページはこちら→【 <https://center.gsn.ed.jp/yokyo> 】

教育相談技術認定について

教育相談技術認定は、昭和43年に創設され、半世紀以上の歴史をもつ群馬県独自のものです。

様々な課題や悩みを抱える子供たちや保護者との関わりにおいて、教育相談の考えを学んで信頼関係づくりに生かしていきませんか。

毎年、多くの教職員の方から、初級及び中級の申請があります。中級取得後、指導的立場で活躍されている方々は、是非、上級取得を御検討ください。令和3年度教育相談技術認定の日程等は以下のとおりです。

令和3年度 群馬県教育研究所連盟 教育相談技術認定

申請資格

申請資格は、各級の①と②の要件を満たす者とする。

- (1) 初級（生徒指導・教育相談の基礎的な理論・技術を習得している者）
 - ① 学校又は教育研究所の教職員として2年以上の勤務経験を有する者
 - ② 「教育相談初級研修」を全て受講している者
- (2) 中級（基礎を踏まえて専門的な理論・技術を習得している者）
 - ① 初級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
 - ② 「教育相談中級研修」を全て受講している者
- (3) 上級（生徒指導・教育相談を校内の指導的立場で実践している者）
 - ① 中級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
 - ② 次のア～ウを合計して3年以上の経験年数を有する者
 - ア 生徒指導担当、教育相談担当の経験
 - イ 教育研究所における相談業務（年間を通して週1回以上行ったもの）の経験
 - ウ 群馬県総合教育センター及び教育研究所における生徒指導・教育相談研修の講師・指導・助言の経験（年1回以上の経験を年度ごとに1年とする）



申請期間及び締切日

- (1) 持参する場合（県立学校も所在地により、以下の時間帯に御持参ください）
 - ・申請期間 令和3年12月1日（水）10：00～12：00（中毛地区）
13：00～17：00（西毛地区）
 - 令和3年12月2日（木）10：00～12：00（東毛地区）
13：00～17：00（北毛地区<吾妻・利根含む>）
- (2) 郵送する場合
 - ・令和3年12月2日（木）までに必着

申請書について

申請書は、総合教育センターWebページからダウンロードして、使用してください。

【 <https://center.gsn.ed.jp/sodan/gijutunintei> 】

【不登校児童生徒・保護者支援での自立支援アドバイザーの活用について】

今年度も自立支援アドバイザー2名の派遣依頼を多数いただいております。教育支援センターでの児童生徒・保護者との面談だけでなく、市町村で実施し、支援員の方も参加する不登校支援や対策に関わる研修会での講師も行っています。

詳しくは、子ども教育相談係（0270-26-9217）へお問合せください。



当センターへ来所される方へ

防寒対策のお願い

晩秋から冬にかけて、厳しい寒さが予想されます。
研修室の暖房は気候に応じ調整しますが、温度調節が可能な服装（上着、ひざ掛け等持参）でお越しく下さい。

交通事故防止に御協力を

当センターには、毎日多くの方が車で来所し、駐車場を利用されます。
特にこれからの時期は、日暮れが早くなり見通しが悪くなります。センターへの出入り及び敷地内を走行する際は、車だけでなく歩行者にも注意していただき、交通事故防止に御協力をお願いします。

編集後記

早いもので、今年も、残すところ一ヶ月となりました。今年度、当センターでは、オンライン研修と集合研修を組み合わせ、感染拡大防止を重視して研修を行ってきました。今後も、皆様に安心して質の高い研修を受けていただくために、工夫・改善を図っていききたいと思います。

さて、今回お届けする電子版センターだより 29号では、「教育研修員研修の紹介」「ぐんま教育フェスタ・オンライン開催の案内」「カリキュラムセンターの紹介」「特別支援教育における ICT の活用」「幼児期の教育コラム」「教育相談技術認定について」等、各担当係から最新の情報を掲載しました。是非、これからの教育活動に御活用ください。

最後に、皆様におかれましては、忙しい毎日をお過ごししかと思います。新型コロナウイルス感染症の感染者数も、現在は減少していますが、これから迎える今年の冬は寒さが厳しいという情報もあり、まだまだ油断はできない状況です。でも、このような時だからこそ、仕事の合間に暖かいものを飲んでほっと一息つく、短い時間でも周囲の人と楽しい話をするなど、心や体が温まる時間を大切にしていきたいものです。

(文責：T.S)